

加古川市文化財年報

第8号

令和4（2022）年度

令和7（2025）年3月

加古川市教育委員会

加古川市文化財年報

第8号

令和4（2022）年度

令和7（2025）年3月

加古川市教育委員会

目次

目次・例言・凡例

巻頭図版

第1章 調査研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査報告1 溝之口遺跡 確認調査報告	
調査報告2 平津遺跡 確認調査報告	
調査報告3 志方大塚古墳 工事立会調査報告	
調査報告4 金属製品保存処理 概要報告	
第2章 文化財の保護と活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・	24
新市指定文化財 稚児窟石棺蓋	
第3章 文化財審議委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・	32
第4章 文化財関係の事務処理 ・・・・・・・・・・・・	34
第5章 組織、予算・決算、管理 ・・・・・・・・・・・・	43
報告書抄録	

例言・凡例

1. 本書は、令和4（2022）年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
2. 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局教育指導部文化財調査研究センターが行った。執筆は山中リュウ、平尾英希、古林舞香が行い、編集は古林が行った。執筆の分担は文末に明記している。
3. 出土遺物の整理、実測、レイアウト、撮影は、山中、平尾、古林、埋蔵文化財専門員 乗本愛実のほか、会計年度任用職員 井上かおり、窪田美佳、佐藤 薫が行った。
4. 図表作成に係るデータ整理は、会計年度任用職員 前田富子が補助した。
5. 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、弥生土器・土師器を白抜きで表現している。
6. 掲載した地図は、加古川市域図（令和2年度加古川市発行）に加筆修正を行い使用した。縮尺は各地区に示している。
7. 本書で報告した出土遺物、実測図、写真等は加古川市教育委員会が保管している。



令和4年度指定 市指定文化財 稚児窟石棺蓋（池尻町内会）

第1章 調査研究

1 埋蔵文化財調査

国及び県の文化財関係補助金事業として、各種開発事業に伴う市内遺跡の発掘調査や出土品の整理を行ったほか、過去の発掘調査で出土した金属製品の保存処理を行った。

令和4（2022）年度は、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査を3件、②周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内での開発事業に伴い破壊されるおそれのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査などを17件、③周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査を9件実施した（表1）。

開発事業に伴う発掘調査は、岸東遺跡及び上村池遺跡、広畑遺跡において実施した。以下、その成果の概要について述べていく。

岸東遺跡 民間開発の宅地造成事業に伴い、工事によって遺構が破壊される部分503㎡において発掘調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡3棟、柱穴列1列、井戸1基、土坑・ピット28基、溝5条を検出した。遺物は、11世紀後半から15世紀中頃にかけての土師器・須恵器などが出土した。全体の出土量が少ないため詳細な時期の検討は困難であるものの、検出された遺構・遺物の特徴から、平安時代後期に形成され室町時代後半頃まで存続する、所謂中世村落的な性格が看取できた。加古川右岸に展開する中世の集落様相は判然としておらず、岸東遺跡においても、今回調査では検出されなかった耕地や墓地を含めた集落全体の解明が望まれる。

詳細な調査成果については、令和5（2023）年度に刊行した『岸東遺跡発掘調査報告書』を参照されたい。

上村池遺跡・広畑遺跡 兵庫県が事業主体となって行っている農業基盤整備事業の雁戸井地区ほ場整備事業に伴い、上村池遺跡、広畑遺跡の2遺跡において発掘調査を実施した。

上村池遺跡では、水路工事部分の140㎡において調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡2棟、土坑6基、ピット2基、溝1条を検出し、土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石器などが出土した。遺物を伴う遺構の時期は概ね平安時代後期頃と考えられる。当遺跡では、一連のほ場整備事業に伴って平成28（2016）・29（2017）年度、令和3（2021）年度にも発掘調査を実施しており、それらの調査成果から、この遺跡が官衙的要素を持った集落であることが既に知られている。今回の調査箇所は令和3年度実施の調査箇所の北側に隣接しており、現状で把握されている遺跡範囲の北西端に位置している。上村池遺跡全体のなかでの今回調査地の性格については、現在整理作業を行いながら検討を進めているところである。

広畑遺跡では、水路工事部分475㎡において調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡を1棟、土坑・ピットを多数検出した。遺物は、土師器、須恵器などが出土した。遺構に伴う遺物は少量であるが、少なくとも、古墳時代終末期及び中世の遺構が存在するとみられる。土坑のうち、大型のもの多くは粘土採掘に伴う痕跡と考えられ、須恵器などの窯業生産に関連する土地利用がされたものと想定できる。本遺跡は、令和元（2019）年度に実施した試掘調査によって新たに発見され、奈良時代から中世にかけての集落跡として把握されている。初の本発掘調査である今回調査では、遺跡の性格や周辺の土地利用状況を考えるうえで貴重な成果を得ることができた。

なお、詳細な調査成果については、上村池遺跡、広畑遺跡ともに令和7（2025）年度に発掘調査報告書を刊行する予定である。

一方、試掘調査、確認調査及び分布調査については、各種開発事業に伴い周知の埋蔵文化財包蔵地内外で計26件の調査を実施した。本年報では、これらの調査のうち、遺構・遺物が確認されたものを中心として2件の調査成果について報告する（図1-1～2）。そのほか、開発事業に伴う工事立会調査報告(3)、文化財関係補助金事業として実施した市内遺跡出土金属製品保存処理の概要報告(4-1・2)を掲載している。

2 その他の文化財調査

埋蔵文化財を除いたその他の文化財調査については、古文書・民具・記念物等の調査を4件、指定文化財の保存・活用等に係る巡視を18件、指定文化財を含む市内文化財の現状確認のための巡視を30件行った。

(山中、古林)

表1 発掘調査、試掘・確認調査及び分布調査一覧

発掘調査

番号	遺跡	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	岸東遺跡（岸城跡） 城跡跡 中世	西神吉町岸 691 外	5月13日～ 6月10日	503㎡	竪立柱建物跡・柱穴列・井戸・土坑・ ピット・溝状遺構 土師器・須恵器・麻輪陶器	民間開発（宅地造成） に伴う発掘調査
2	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 奈良・平安	八幡町中西条地内	9月14日～ 9月29日	140㎡	竪立柱建物跡・土坑・ピット・溝 状遺構 土師器・須恵器・瓦質土器・石器	雁戸井地区ほ場整備事 業に伴う発掘調査
3	広畑遺跡 集落跡 奈良～中世	八幡町中西条地内	11月21日～ 令和5年1月20日	475㎡	竪立柱建物跡・土坑・ピット・溝 状遺構 土師器・須恵器・石器	雁戸井地区ほ場整備事 業に伴う発掘調査

試掘・確認・分布調査

番号	遺跡 _①	所在地	調査期間 _②	調査面積	調査概要	備考
1	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	東神吉町砂部 327-2 の一 部	4月20・21日	12.0㎡	遺構なし 土器細片	
2	加古川市尾上処理工 場	尾上町養田 1650	4月27・28日	11.5㎡	遺構・遺物なし	尾上処理工場整備運営事 業に伴う試掘調査
3	田東加古川公民館	平岡町新在家 455-1 外	5月6・7日	9.0㎡	遺構・遺物なし	土地利用の計画に伴う試 掘調査
4	津津遺跡 集落跡 弥生・古墳	加古川町東津 26-6 の一部 外	5月16・17日	13.5㎡	遺構なし 土器細片	
5	旧加古川東消防署	平岡町新在家 29-2 外	5月19・20日	8.0㎡	遺構・遺物なし	土地利用の計画に伴う試 掘調査
6	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	八幡町下村 843	5月30日	8.0㎡	遺構・遺物なし	
7	北在家遺跡 集落跡 弥生・古墳	野口町良野 402-3	6月1・2日	12.0㎡	遺構なし 土器細片	
8	山角慶寺 社寺跡 奈良	平荘町山角 468-2 外	6月16日	6.0㎡	遺構・遺物なし	

番号	遺跡 _{※1}	所在地	調査期間 _{※2}	調査面積	調査概要	備考
9	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	東神吉町西井ノ口 252-34	6月21日	4.0㎡	遺構・遺物なし	
10	日岡山公園・広沢山 遺跡 集落跡、古墳～平安	加古川町大野地内	7月12日～ 9月27日	600㎡	古墳周溝（東車塚古墳・ 西車塚古墳） 埴輪	日岡山公園西整備事業に 伴う試掘・確認調査
11	尾上町今福地区	尾上町今福 533-1	7月13日	8.0㎡	遺構なし 土器細片	民間開発に伴う試掘調査
12	成井山遺跡 集落跡 縄文～平安	志方町成井 429-3 外	8月5・10日	26.0㎡	遺構・遺物なし	
13	野口城跡 城館跡 中世	野口町野口 227-1	9月7・8日	12.0㎡	遺構なし 土器細片	
14	古太内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	野口町古太内 491-3 の一 部	9月9日	4.0㎡	遺構なし 土器細片	
15	西条 21 号墳 古墳	西条山手二丁目 16-3	9月21日	4.5㎡	遺構・遺物なし	
16	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口 140-18	9月29日	4.0㎡	性格不明遺構 弥生土器・土師器・須恵器・ 石器	
17	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 1017-3	11月7日	8.5㎡	遺構なし 土器細片	
18	旧加古川市公設地方 卸売市場	野口町長砂 707	11月8・9日	8.0㎡	遺構・遺物なし	土地利用の計画に伴う試 掘調査
19	両荘公民館	平荘町山角 718-1 外	11月21～25日	18.0㎡	遺構なし 土器細片	公民館整備事業に伴う試 掘調査
20	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	八幡町上西条 3-5	12月6日	4.0㎡	遺構なし 土器細片	
21	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 703-1 外	12月13～15日	34.5㎡	遺構・遺物なし	
22	平津遺跡 集落跡 弥生～平安	米田町平津 514 外	令和5年 1月12・13日	13.5㎡	遺構なし 土師器・須恵器・瓦	
23	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	尾上町口里 568-13	令和5年 1月18日	4.0㎡	遺構・遺物なし	
24	旧加古川市水道局庁 舎	加古川町北在家地内	令和5年 1月24・26日、6 月21・23日	16.0㎡	遺構なし 弥生土器・土師器・須恵 器	施設解体に伴う試掘調査
25	八幡町野村地区	八幡町野村 815 外	令和5年 2月1～7日	66.0㎡	遺構・遺物なし	民間開発に伴う試掘調査
26	上荘町国包地区	上荘町国包 468-1 の一部 外	令和5年 3月2～8日	30.0㎡	遺構なし 土器細片	民間開発に伴う試掘調査

※1 埋蔵文化財包蔵地範囲外における試掘調査では、遺跡名称及び種別・時期でなく地区名を記している。

※2 調査期間は、試掘・確認調査のほか、その後を実施した工事立会などの期間も含む。

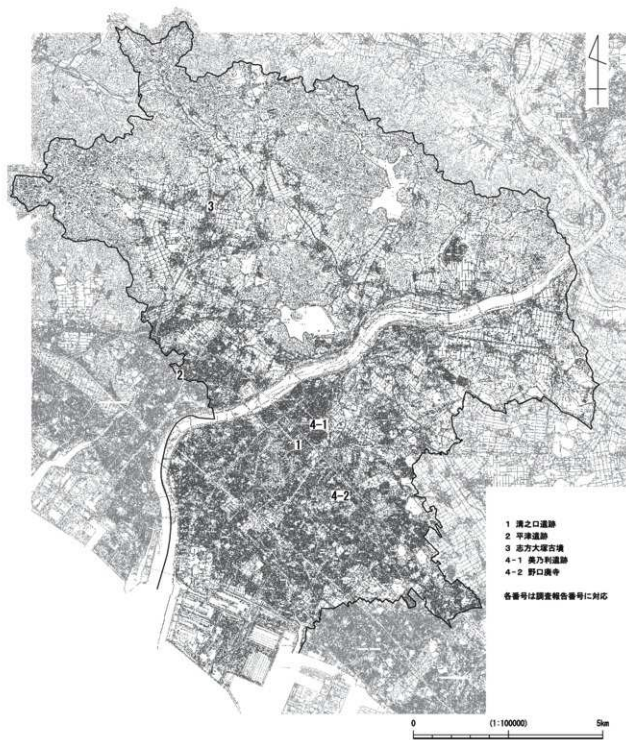


図1 埋蔵文化財調査及びその他の文化財調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 溝之口遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町溝之口 140 番 18
調査期間 令和 4 年 9 月 29 日
調査面積 4.0 m²
担当者 古林舞香



図2 調査位置図

1. 調査に至る経緯

加古川町溝之口 140 番 18 (252.71 m²) において個人住宅建設工事が計画された(図2)。当該地は溝之口遺跡に位置していたため、開発業者と協議を行い、埋蔵文化財の性格・内容等を把握するための確認調査を実施することとなった。

2. 調査の結果

工事予定地のほぼ中央に調査区を1か所設定し確認調査を実施した(図3)。調査区の基本層序は、造成土以下に暗灰黄色シルト(2層)、黄褐色シルト(3層)の薄い堆積層を挟んで遺物包含層である黒褐色及び黒色を呈するシルト(4・5層)が厚く堆積する。遺物包含層の下位は、褐色シルト(7層)、褐色極細砂混じりシルト(8層)と続く(図4)。

遺物包含層直下の褐色シルト上面において、調査区壁にかかる遺構を3基(SX1～3)検出した。遺構の性格を含めて全貌が不明であるため全て性格不明遺構としておく。SX1は、平面不整形で検出範囲での最大長は1.35mを測る。調査区北東壁沿いにサブレンチを設け、遺構検出面から0.72mまで掘削したものの、底面の確認には至らなかった。埋土から弥生時代中期頃を中心とする弥生土器が多量に出土した(図5)。図化し得たものに弥生土器壺(図5-1・2)、甕(3～6)、壺又は甕底部(7)、高杯(8)がある。SX2・3は未掘であり、時期や性格等の詳細は不明である。

遺物は、SX1以外では遺物包含層において弥生土器や石器、奈良・平安時代頃の土師器、須恵器、瓦が出土した(図6)。主となるのは弥生時代中期から後期頃までとみられる弥生土器である。図化し得たものに弥生土器壺(図6-9～12)、甕(13)、壺又は甕底部(14・15)、高杯(16)、時期不明の土師器甕(17)、サヌカイト製の二次加工剥片(18・19)がある。

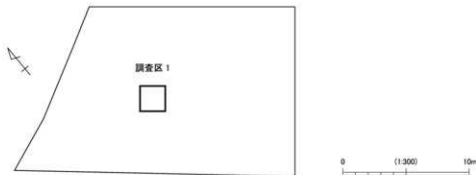


図3 調査区配置図

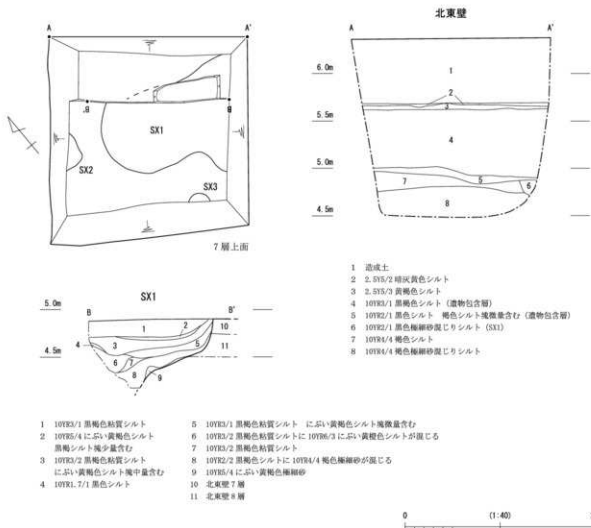


図4 調査区平面図・断面図

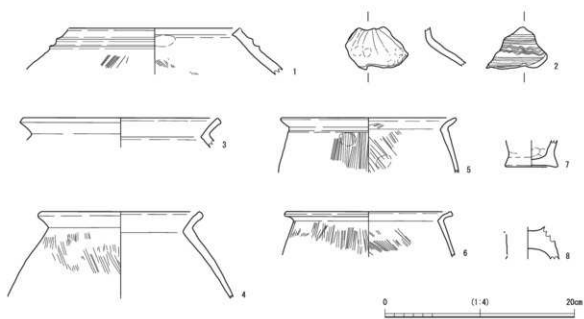


図5 出土遺物 (SX1)

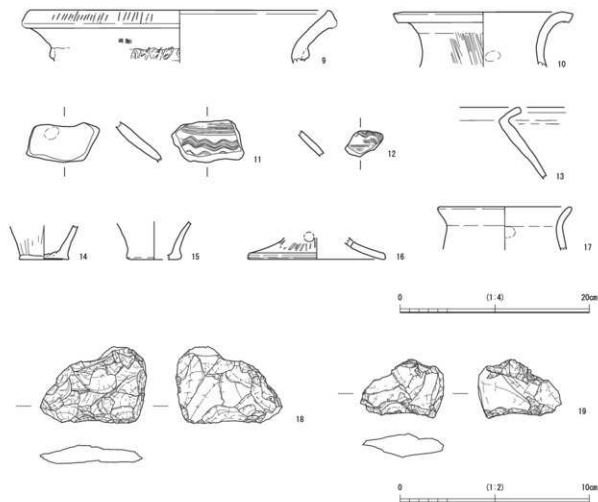


図6 出土遺物（遺物包含層）

3. まとめ

溝之口遺跡は、弥生時代における加古川左岸の拠点集落として知られる遺跡である。昭和43（1968）年の加古川バイパス工事に伴う発掘調査以降は度々本発掘調査が実施され、その集落様相が徐々に明らかになりつつある。

今回調査地は溝之口遺跡のほぼ中央に位置する。調査では、弥生時代中期頃に埋没したと考えられる性格不明遺構（SX1）を確認し、遺物包含層からは弥生時代から奈良・平安時代頃にかけての土器や石器が出土した。過去に周辺で実施された確認調査では、検出密度は高くはないものの、今回調査と同様に弥生時代や奈良・平安時代の遺構、遺物が随所で確認されている。遺跡の中心部は、これまでの本発掘調査によって現在の加古川バイパスより北に位置していることが判明している。今回調査地の一帯は集落の中心部からやや外れた地域といえるが、その土地利用の詳細は把握に至っていない。このような状況から、溝之口遺跡全体の集落様相の解明に向けて、今後も調査を実施していく必要があるといえる。

（古林）



写真1 遺構検出状況（北東から）



写真2 SX1 断面（北から）



写真3 調査区全景（北西から）



写真4 土層堆積状況（南西から）



写真5 出土遺物（SX1）



写真6 出土遺物（遺物包含層1）



写真7 出土遺物（遺物包含層2）



写真8 出土遺物（遺物包含層3）

調査報告 2 平津遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市米田町平津 514 番外 3 筆
調査期間 令和 5 年 1 月 12・13 日
調査面積 13.5 m²
担当者 山中リュウ

1. 調査に至る経緯

米田町平津 514 番外 3 筆の土地 (1477.58 m²) において、宅地造成工事が計画された (図 7)。この土地は、北側部分が平津遺跡の範囲に含まれており、平成 8 (1996) 年度に今回対象地を含む近隣一帯で実施した確認調査において弥生時代から奈良時代にかけての遺物が出土したエリアである (西川 2003)。今回対象地には、平成 8 年度に調査が実施されなかった土地が含まれていたため、事業者と事前協議を行い、埋蔵文化財の範囲・性格・内容等を把握するための確認調査を実施することとなった。



図 7 調査位置図

2. 調査の結果

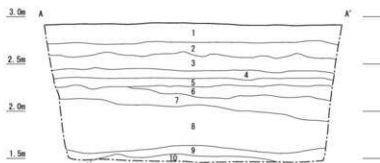
工事予定地内のうち、過去に調査が実施されなかった土地に調査区を 3 か所設定し確認調査を実施した (図 8)。土層の堆積はおおむね共通しており、地表下 0.3 ~ 0.4 m までは現在の耕作土や床土が堆積し、その直下に古代の遺物を中心とする遺物包含層が認められた。遺物包含層の下位には、遺物を含まない二次堆積層があり、地表下 0.8 ~ 1.0 m (標高 2 m 前後) で砂質の自然堆積層 (いわゆる地山) となる (図 9)。

各層を注意深く観察しながら掘り下げ、地山面上を中心に遺構検出作業を行った結果、どの調査区からも遺構は検出されなかった。遺物は、各調査区の遺物包含層から土器の小片が出土し、西寄りに設定した調査区 1 からの出土量が多く、東へ行くほど少なくなる。時期的には、奈良時代の遺物が最も多く、次いで古墳時代後期の須恵器が少量、弥生時代や中世の遺物がごく少量であった (図 10)。



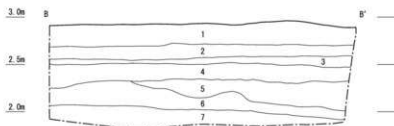
図 8 調査区配置図

調査区 1 東壁



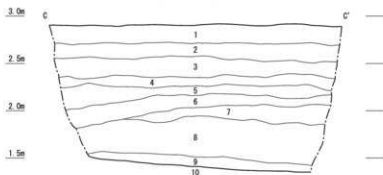
- | | |
|---|---------------------------------|
| 1. 耕作土 | 6. 10YR5/4褐色シルト マンガン粒含む (遺物包含層) |
| 2. 床土 | 7. 10YR4/4褐色砂質シルト 炭化物微量含む |
| 3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト マンガン粒含む (遺物包含層) | 8. 10YR6/4にぶい黄褐色細砂 (地山) |
| 4. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト マンガン粒含む 炭化物微量含む (遺物包含層) | 9. 10YR6/3にぶい黄褐色細砂 (地山) |
| 5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 炭化物少量含む (遺物包含層) | 10. 7.5YR4/6褐色細砂 (地山) |

調査区 2 東壁



- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1. 耕作土 | 5. 10YR4/4褐色シルト マンガン粒含む |
| 2. 床土 | 6. 10YR4/4褐色砂質シルト 炭化物微量含む |
| 3. 10YR6/2灰黄褐色シルト マンガン粒含む (遺物包含層) | 7. 10YR6/4にぶい黄褐色細砂 (地山) |
| 4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト マンガン粒含む 炭化物微量含む | |

調査区 3 東壁



- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 耕作土 | 6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト |
| 2. 床土 | 7. 10YR4/4褐色細砂 (地山か) |
| 3. 10YR6/2灰黄褐色シルト マンガン粒含む (遺物包含層) | 8. 10YR5/4にぶい黄褐色細砂 灰白色細砂混じる (地山) |
| 4. 10YR4/2R黄褐色細砂 黄褐色シルト混じる (遺物包含層) | 9. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂 (地山) |
| 5. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト マンガン粒含む (遺物包含層) | 10. 7.5YR4/6褐色細砂 (地山) |

0 (1:40) 2m

図9 調査区断面図

3. まとめ

平津遺跡は、弥生時代から平安時代にかけての集落跡として登録され、その南東隣接地には中世の城館跡として平津構居跡が登録されている。いずれの遺跡も、これまでに本格的な発掘調査は実施されることがなく、集落の中心域などの分析も進んでいない。平成8年度の試掘調査では、今回対象地を含む広範囲に及ぶトレンチ調査が実施されたが、いくつかの調査区で小規模なピットや溝が確認された程度である。遺物も、遺構からの出土はごくわずかで、大部分が今回調査と同様の遺物包含層中からの出土であった。

今回の調査結果と比較すると、平成8年度調査の際に確認された遺物包含層の標高は、今回確認された遺物包含層の標高と近い値を示し、包含する遺物量に差はあるものの、周辺一帯に遺物包含層が安定して広がっていると考えることができよう。これらの遺物は、より標高の高い場所にある集落の中心域から拡散してきたものと考えられ、その場所は今回調査地の北側にある国道2号線付近の微高地上などが想定できる。このことを裏付けるように、平成8年度調査をはじめとしたこれまでの試掘調査で僅かに確認されている遺構は、すべて遺跡範囲の北側で確認されている。いずれにせよ、平津遺跡の実態については不明な部分が多いため、今後も継続して調査を実施していく必要がある。(山中)

参考文献

西川英樹 2003「平津構居跡発掘調査報告書」『加古川市埋蔵文化財調査集報Ⅱ』加古川市教育委員会

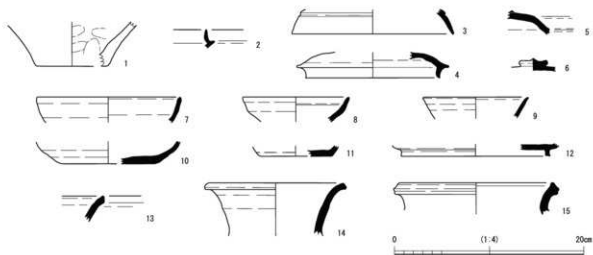


図10 出土遺物



写真9 調査区1全景(北から)



写真10 調査区1東壁断面(西から)



写真11 調査区2全景（北から）



写真12 調査区2東壁断面（西から）



写真13 調査区3全景（北東から）



写真14 調査区3東壁断面（北から）



写真15 出土遺物

調査報告3 志方大塚古墳 工事立会調査報告

調査場所 加古川市志方町志方町区内
調査期間 令和4年10月27日、11月18日
調査面積 9.6㎡
担当者 山中リュウ・平尾英希・古林舞香

1. 調査の経緯

志方町投松350番地先から同町志方町1756番7地先に至る市道部分において、加古川市上下水道局による幹線布設替工事及び支管整備工事が計画された（総延長3,255m）。これらの計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していないものの、志方町志方町地区には工事場所の北側隣接地に志方大塚古墳が所在している。この古墳については、昭和初期に墳丘が削られ

石室天井部などが解体されたことや、市道を敷設する際に古墳の羨道部が削られたことなどの記録があり、今回工事を実施する市道部分まで古墳の範囲が及んでいた可能性が考えられた。このことから、市の事業担当課と事前協議を行い、古墳の痕跡が残っているかを確認するための工事立会を実施することとなった（図11）。

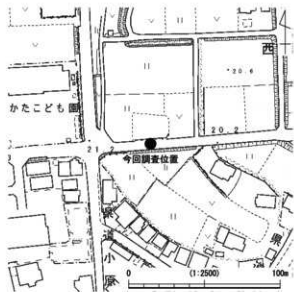


図11 調査位置図

2. 調査の結果

調査は、古墳の所在する敷地の前面に工事が及んだ際の実施することとし、2回に分けて行った（立会箇所1・2）。調査の結果、いずれの立会箇所からも古墳の痕跡を確認することができた。以下、立会箇所ごとに詳細を述べる（図12・13）。

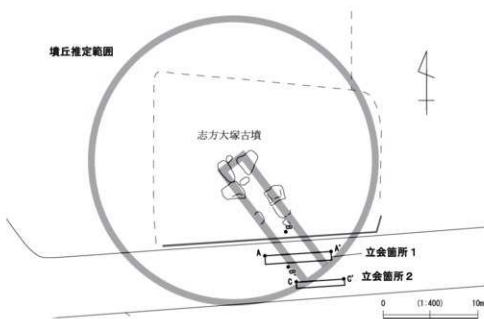


図12 立会箇所位置図

立会箇所1 古墳の所在する土地から南へ1.4 mの位置に掘削された幅0.9 m、長さ7 mの工事区である。市道のアスファルト面から0.25～0.4 mまでは道路敷設時の造成土が堆積し（第1～4層）、その直下から、古墳に関連すると考えられる大型の石材が複数検出された。石材は東西2か所に並行した配列を示し、古墳羨道の側壁である可能性が高いものと考えられた。土層の堆積は、羨道内と外側で異なる様相を示し、羨道内の堆積は古墳が破壊された後の埋没土（第5～8層）、外側の堆積は側壁を設置する際の掘方埋土（第9～12層）と考えられる。

幅0.9 mの工事による掘削坑内で、道路を通行止めにしたがらの限られた時間で調査であったため、土層の記録や観察は標高19.5 m付近までしか行えず、平面図も作成できなかったが、断面において羨道の掘方が標高19.0 m付近まで及んでおり、石材も同様の深さまで据えられていたことを確認している。これらのことから、石室構築時には、地山を1 m以上掘り込んだのちに側壁を設置したものと考えられる。

遺物は、羨道内の埋没土（第5～7層）から時期不明の須恵器片1点（写真28）が出土したのみである。

立会箇所2 古墳の所在する土地から南へ4.7 mの位置に掘削された幅0.65 m、長さ5.5 mの工事区で、立会箇所1からは南へ2 mほど離れている。土層の堆積状況は、市道のアスファルト面から0.7～1.0 mまで道路敷設時の造成土や古墳とは関連しない二次堆積層が堆積し（第1～10層）、東寄りの一部のみ、古墳墳丘からの流土と考えられる堆積（第11～14層）が認められた。工事区の間は、粘土質の地山がわずかに確認できることから（第15層）、その間が古墳羨道の延長部分にあたと判断できる。一方、立会箇所1のような大型の石材は確認されなかった。また、この工事区は掘削深度が1.0 m程度と立会箇所1より浅かったため、標高19.5 mより下位の状況は確認することができず、羨道部の明確な範囲や輪郭を捉えることはできなかった。

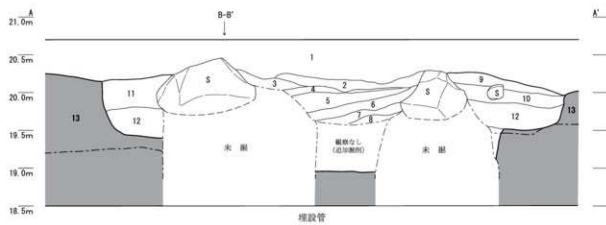
遺物は、古墳とは関連しない上層部分（第1～10層）から時期不明の土師器片1点（写真28）が出土したのみである。

3. まとめ

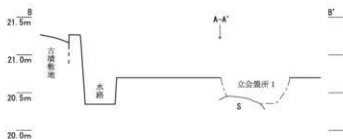
志方大塚古墳は、これまで本格的な発掘調査が実施されたことはないものの、古墳時代後期の築造とされ、群集墳が隆盛する時期において平地に単独で存在する大型墳であることから、地域の中心的な被葬者の墳墓と評価されている。横穴式石室に使われている石材はいずれも大型で、石室奥壁には石棚が設置されるなど、注目すべき古墳である。しかし、昭和初期に石室の上部が解体され、墳丘や石室の規模、形態は不明のままであった。

今回の調査では、古墳南側に接する道路で工事立会を実施したところ、2か所の工事区から志方大塚古墳の痕跡を確認することができた。今回の成果によって、立会箇所1まで石室が続いていたことや、立会箇所2の付近まで地山を掘りこむ羨道入り口や前底部が及んでいたことなどが明らかとなり、墳丘や石室の規模を検討する材料が増えたことは大きな成果と言える。墳丘の規模は、現存する石室中央を墳丘の中心点と仮定すると、円墳であれば直径約30 mの古墳に復元することができる。石室の規模は、奥壁から今回確認した立会箇所1の石材までの距離が約13 mであることから、市内最大級の横穴式石室とされる平荘湖古墳群の升田山15号墳や池尻16号墳に匹敵する規模を有する石室であったといえる。各部の標高は、石室が残存する土地の地表面は約21.5 m、今回調査をした市道の道路面は約20.7 m、道路下から検出された側壁の上端は約20.5 mである。さらに、確認した地山で最も高い地点は20.3 m、断面のみで確認した羨道掘方の底面は約19.0 mであり、石室を造る際に地

立会箇所 1 北壁

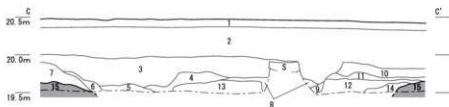


立会箇所 1 南北エレベーション



- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 アスファルト・表土 | 8 黄褐色シルト (二次堆積層) |
| 2 灰褐色シルトをブロック状に含む (整地層) | 9 灰黄褐色シルト 粘土ブロックを含む (側壁掘方) |
| 3 黒褐色シルトをブロック状に含む (整地層) | 10 褐色シルト (側壁掘方) |
| 4 褐色シルトをブロック状に含む (整地層) | 11 黄褐色シルト 地山ブロック含む (側壁掘方) |
| 5 褐色シルトと灰褐色シルトがラミナ状に堆積 (二次堆積層) | 12 黄褐色シルト 地山ブロック多く含む (側壁掘方) |
| 6 灰色粘質シルト (二次堆積層) | 13 灰白色シルト (地山) |
| 7 灰褐色シルト (二次堆積層) | |

立会箇所 2 北壁



- | | |
|---|--|
| 1 アスファルト | 10 2.5Y5/4黄褐色シルトに灰褐色シルト混じる (二次堆積層) |
| 2 造成土 | 11 2.5Y5/4黄褐色極細砂に灰白色シルト混じる (古墳土?) |
| 3 礫風土 | 12 10YR6/8明黄褐色粘土に濃い黄褐色粘土混じる (古墳土?) |
| 4 整地層 | 13 10YR5/4に濃い黄褐色シルト 地山ブロックを微量含む (古墳土?) |
| 5 7.5YR3/1黒褐色シルト (旧耕作土) | 14 10YR5/4に濃い黄褐色シルトに褐色シルト混じる (古墳土?) |
| 6 7.5YR3/4暗褐色極細砂に明黄褐色粘土ブロックが混じる (二次堆積層) | 15 10YR6/8明黄褐色粘土に灰白色粘土混じる (地山) |
| 7 2.5Y5/6明黄褐色粘土に灰褐色シルトブロック中量含む (二次堆積層) | |
| 8 7.5YR3/3暗褐色シルトに極細砂混じる (二次堆積層) | |
| 9 5Y5/4オリーブ色シルトに灰色シルト混じる (二次堆積層) | |

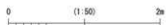


図 13 立会箇所 1・2 断面図

山を1m以上掘り込んで側壁を構築したことが明らかになった。

遺物については、残念ながら今回の調査では古墳に関連する遺物を発見することはできなかった。これまでも、志方大塚古墳の遺物は一切知られておらず、明確な時期を検討することができないのは悔やまれる。

最後に、立会箇所1で発見された石材の保存について述べておく。当初の工事計画では、立会箇所1は地表下2mまで掘削する予定であったが、古墳の側壁を保護するため掘削は断念し、特殊なトンネル工法で石材の下に管を通す手法に変更をしていただいた。限られた時間の中で早急な対応をしていただいた上下水道局及び工事請負業者に感謝の意を表したい。

(山中)



写真 16 立会箇所1と志方大塚古墳（南東から）



写真 17 立会箇所1 古墳側壁検出状況（西から）



写真 18 西側側壁検出状況（北東から）



写真19 西側側壁掘方（南から）



写真20 東側側壁掘方（南から）



写真21 鉄道部断面（南東から）



写真22 鉄道部追加掘削状況（南から）



写真23 東側側壁部分追加掘削状況（南から）



写真24 立会箇所2 全景（西から）



写真25 西側土層（南東から）



写真26 中央部土層（南西から）



写真27 東側土層（南東から）



写真28 出土遺物（左：立会箇所2、右：立会箇所1）

調査報告 4 金属製品保存処理 概要報告

はじめに

加古川市教育委員会文化財調査研究センターがこれまでに実施してきた市内遺跡の発掘調査で出土した遺物は、同センターの収蔵庫において保管・管理を行っている。

出土遺物の多くは、集落遺跡から出土した弥生土器や須恵器などの土器類、古墳から出土した各種埴輪、古代寺院から出土した瓦など、「土」を材質とするものであるが、当然そのなかには金属製品や木製品なども一定数存在する。金属製品や木製品は外部の影響を受けやすく腐朽しやすいという性質をもっており、恒久的に残していくためには保存処理が必要不可欠となる。

しかし、収蔵庫にあるこれらの遺物のなかには、保存処理がなされていない状態のまま長期間保管されているものもあり、このままでは腐朽が進行し、最終的に原形をとどめることができないものが出てくるのが危惧された。そこで文化財調査研究センターでは、令和元（2019）年度から国及び県の補助金を活用し、これらの遺物の保存処理を継続的に実施している。

1 金属製品保存処理工程

(1) 保存処理の経緯

令和4年度は、株式会社吉田生物研究所に業務委託を行い、令和4年5月14日から令和5年3月10日にかけて、鉄製品4点の保存処理を行った。

(2) 保存処理作業内容

株式会社吉田生物研究所によって実施された保存処理の作業内容は以下のとおりである。

処理前調査・・・資料の観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影

保存処理・・・錆の除去、脱塩処理、樹脂含浸、樹脂コーティング、破片接合、樹脂補填・補彩

処理後調査・・・処理後の写真撮影、処理後の状態確認、保存処理記録作成



写真 29 錆の除去状況



写真 30 樹脂補填・補彩状況

2 保存処理金属製品

(1) 美乃利遺跡出土鉄製品 (図 14 - 1 ~ 3、写真 31 ~ 33)

美乃利遺跡は、加古川市加古川町大野、同町美乃利に所在する集落遺跡である。平成 2 (1990) 年度以降、河川の改修工事や道路の敷設工事に伴い、兵庫県教育委員会や加古川市教育委員会によって継続的に発掘調査が実施されており、おもに弥生時代から近世にかけての遺構・遺物が数多く確認されている (山田編 1997・2006、山中編 2018、平尾 2024)。今回保存処理を行ったものは、平成 27 (2015) 年度に実施した発掘調査で出土した鉄製品 3 点である。

1 は、弥生時代終末期頃の「堅穴建物 2」(遺構の名称は山中編 2018 に拠る。以下、美乃利遺跡の遺構について述べる場合は同様である) から出土した棒状鉄片であるが、小型の鉄鏃の可能性もある。長さは 2.9cm で、最大幅は 0.75cm 前後と推定される。断面形は扁平なレンズ状を呈しているものとみられ、厚さは 0.25cm 前後と推定される。重量は 1.8 g を測る。

2 は、弥生時代終末期頃の「堅穴建物 4」から出土した不定形の鉄片である⁽¹⁾。平面的には両端が尖った形状をしており、長さは 2.6cm、最大幅は 1.4cm である。断面形はやや歪な隅丸長方形を呈しており、最大厚は 0.65cm である。重量は 3.1g を測る。

3 は、「土坑 7」から出土した U 字形鋤鋸先である。共存遺物は土師器の小片のみであるため、当該遺構の詳細な時期は不明である。両側の耳部端と、片側の耳部の一部が欠損しているものの、全体の残存状態は比較的良好で、残存長は 25.5cm、現存部分での最大幅は耳部で 20.6cm である。平面形は刃部の長い U 字形を呈している。内側には着柄のための V 字溝をもち、その深さは刃部で 2.2cm、耳部で 1.0cm 前後と推定される。刃部の厚さは最大で 1.4cm 前後と推定される。なお、刃部の片面には板状の鉄片が錆着しているが、この鋤鋸先の一部かは不明である。

(2) 野口廃寺出土鉄製品 (図 14 - 4、写真 34)

野口廃寺は、加古川市野口町野口に所在する古代寺院跡である。平成 6 (1994)・7 (1995) 年に加古川市教育委員会が発掘調査を実施しており、講堂跡や小堂跡、塔跡などが検出され、須恵器や土師器、各種瓦類などが出土し、飛鳥時代後期から平安時代にかけて営まれた古代寺院であることが明らかとなった (西川 2004)。今回保存処理を行ったものは、平成 6 年に実施した発掘調査で出土した鉄製品 1 点である。

4 は、体部の先端付近を欠く釘で、残存長は 6.3cm である。頭部形態は、棒状の鉄の一方をそのまま折り曲げるものである。体部の幅及び厚さは 9.0cm 前後で、断面形はほぼ方形である。

3 U 字形鋤鋸先の製作技法に関する一知見

鉄製品には、加熱した鉄を錘などの鍛冶具で叩いて成形する鍛造品と、溶融した鉄を鋳型に流し込んで成形する鋳造品とがある。これは炭素の含有量によって融点に変化する鉄の性質を利用したものであり、鉄の硬軟など、鉄製品の性能にも大きく影響する。また鍛造か鋳造かの加工方法の違いは金属組織の違いにも現れ、鍛造品と鋳造品で異なった腐食の反応をみせる要因にもなっている。このうち鍛造品の腐食の特徴には、不純物が集中する鍛接部分において割れが生じ易く、一定方向に割られるような現象がみられる (松井 2009)。すなわち、鍛造品では鉄素材同士が接着する境界付近において腐食し易い傾向があるため、鉄製品の腐食の状況などを観察することで、そのものの製作技法などある程度推測することが可能と考える。

このようなことを念頭に置きつつ、今回、保存処理作業の過程で美乃利遺跡出土 U 字形鋤鋸先を観

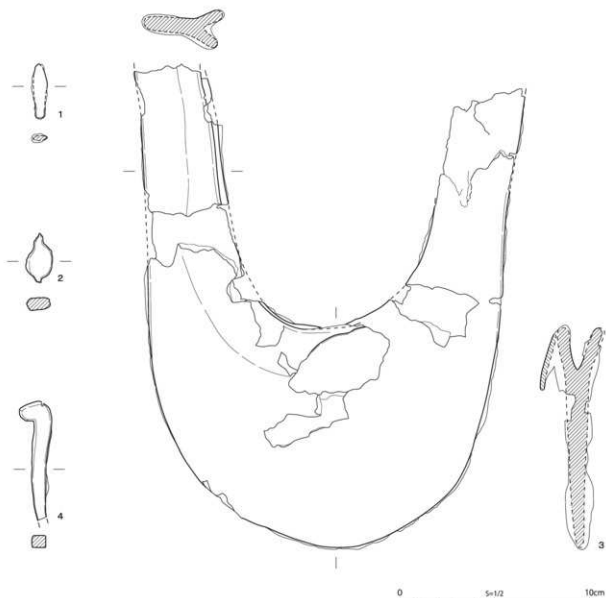


図 14 保存処理鉄製品

察する機会を得た⁽³⁾。そこで、ここでは観察によって得られたU字形鋤先の製作技法に関する一知見を紹介することとする。

U字形鋤先はおもに古墳時代中期以降に出現する農具のひとつで、高度な鍛冶技術を背景にその製作が始まったものと考えられている。その製作技法についてはこれまでもいくつかの復元案が提示されており、近年では河野や石貫がこれらの先行研究を踏まえつつ、U字形鋤先の製作技法に言及している(河野2014、石貫2021)。ここではすべての先行研究を取り上げることはできないが、これまでに提示されている復元案では、着柄用のV字溝という立体的な構造を形成するために、長方形の鉄板を短辺側で折り返して鍛接するのか、それとも長辺側で折り返して鍛接するのかがひとつの焦点となっている。検討対象の資料は異なるものの、古墳時代のU字形鋤先を対象にその製作技法について検討した河野と石貫によると、古墳時代のU字形鋤先の製作にあたっては、長辺側を折り返したものが多くことが指摘されている。

美乃利遺跡から出土したU字形鋤先の断面をみると(写真35～37)、刃部、耳部ともに断面の

中央付近において長軸方向の腐食の筋がみられるとともに、外縁で鉄板を折り曲げているような痕跡が認められた。これらの所見から、このU字形鋤鉋先については、長辺側で折り返して製作されたものと考えられる。

おわりに

以上、令和4年度に実施した金属製品の保存処理の概要について述べてきた。金属製品などの脆弱遺物は、発掘調査で出土した状態のまま保管しておくことと腐朽が進行することが往々にしてある。これらの遺物を後世に残していくため、今後も継続して保存処理を実施していく予定である。

また、令和4年度の保存処理では、その作業過程において遺物を詳細に観察する機会を設けることで、鉄製品の製作技法に関する知見を得ることができた。資料の状態に拠るところが大きいものの、この点については今後の保存処理のうえでも十分留意しておきたい。(平尾)

註

- (1) この鉄片は報告書刊行後にその出土が認識された資料である。竪穴建物4は平面形が隅丸六角形の多角形プランをもつ直径約7.6～8.0mの竪穴建物で、カーボンベッド状の構造をもつ炉の存在、敵石や台石、砥石といった石器類の出土、微小鉄片の出土などから鍛冶工房の可能性が指摘されている。この鉄片の存在から当該建物が鍛冶工房である可能性がさらに高まったといえよう。
- (2) 資料の観察にあたっては、今回の金属製品保存処理の業務委託先である株式会社吉田生物研究所に協力を賜った。記して感謝申しあげる。

参考文献

- 石貫弘泰 2021『愛媛県内出土のU字形鋤鉋先』『紀要愛媛』第17号 愛媛県埋蔵文化財センター
河野正訓 2014『古墳時代の農具研究 - 鉄製刃先の基礎的検討をもとに -』雄山閣
西川英樹 2004『野口庵寺発掘調査概要報告書』加古川市文化財調査報告19 加古川市教育委員会
平尾英希 2024『美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅱ』加古川市文化財調査報告38 加古川市教育委員会
松井敏也 2009『出土鉄製品の保存と対応』考古学研究調査ハンドブック3 同成社
山田清朝編 1997『美乃利遺跡』兵庫県文化財調査報告第165冊 兵庫県教育委員会
山田清朝編 2006『美乃利遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第296冊 兵庫県教育委員会
山中リュウ編 2018『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅳ・美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅰ』加古川市文化財調査報告29 加古川市教育委員会



写真31 棒状鉄片 (美乃利遺跡)



写真32 鉄片 (美乃利遺跡)



写真 33 U字形鋤鍔先 (美乃利遺跡)



写真 34 釘 (野口庵寺)



写真 35 U字形鋤鍔先断面 1



写真 36 U字形鋤鍔先断面 2



写真 37 U字形鋤鍔先断面 3

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

令和5(2023)年3月末時点での指定・登録文化財は、国指定23件(国宝2件、重要文化財21件)39点、県指定33件55点、市指定71件1426点、国登録9箇所37件である(表2)。

表2 指定・登録文化財種別・件数一覧

区分		種別	箇所数・件数	計	
国指定	国宝	建造物	2件	2件	23件
		建造物	4件		
	重要文化財	絵画	5件	21件	
		彫刻	6件		
		工芸品	5件		
		史跡	1件		
県指定	建造物	18件	33件		
	絵画	3件			
	彫刻	7件			
	工芸品	3件			
	書跡	1件			
市指定	建造物	4件	71件		
	絵画	10件			
	彫刻	16件			
	工芸品	9件			
	書跡・典籍	6件			
	考古資料	17件			
	歴史史料	1件			
	無形文化財	1件			
	民俗資料	2件			
	史跡	4件			
	天然記念物	1件			
	国登録	建造物		8箇所36件	9箇所37件
		記念物		1件	

(1) 市指定文化財の指定

文化財審議委員会において諮問し、答申を受けた「稚児窟石棺蓋」の1件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

稚児窟石棺蓋 (巻頭図版1)

名称及び数量 稚児窟石棺蓋 1基

指定分類 考古資料

時代 古墳時代から飛鳥時代(6世紀末から7世紀初頭)

所在地 加古川市平荘町池尻698番地の9

管理者 池尻町内会

指定年月日 令和5年3月9日

指定理由 この石造品は、縄掛突起をもつ家形石棺の蓋の部分である。材質はこの地域で産出される流紋岩質凝灰岩(竜山石)製であり、突起部を含む最大長が242cmの市内最大の石棺

の蓋である。表面は、丁寧に仕上げられておりノミ痕はほとんど認められない。上部には平坦面があり、内側には浅い切り込みがある。突起部は、短辺に各1個、長辺に各2個の計6個あり、断面はいずれも長方形で、わずかに斜め下向きに突出している。

製作年代については、古墳と石棺の特徴から6世紀末から7世紀初め頃と考えられる。この石棺蓋は、稚児窟と呼ばれ

ていた池尻16号墳のものである。昭和41(1966)年に完成した工業用水ダム湖である平荘湖に古墳が水没するまでは、墳頂部にあった弁天の祠の横に置かれていた。平荘ダムの完成に伴って、弁財天をまつる市杵島神社とともに南側の湖畔に移され、露天で保存公開されている。

池尻16号墳は、墳丘の大きさが一辺約40mあり、兵庫県下最大級の横穴式石室を持つ方墳である。石室は、全長13.8m、玄室の長さ6.4m、幅約3m、高さ約3.5メートルで、県下最大級である。この古墳は、形や大きさなど、当時のヤマト政権の王族や有力豪族の古墳の影響が見られることから、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての加古川下流地域の有力者像、そして、ヤマト政権との密接な結びつきを考えるうえで重要な古墳である。

なお、この石棺の身の部分は、江戸時代に姫路藩主榊原式部大夫が泉水に使うために運び出したがあまりに重いので途中で中止した、という記録があり、その後、昭和11(1936)年頃になって道路拡幅工事で発見され、現在、志方町投松の公民館前に保存されている。

大型で丁寧に仕上げられたこの石棺蓋は、古墳時代後期から飛鳥時代の播磨地域を代表する方墳である池尻16号墳(稚児窟)に安置されていたもので、播磨の古代史を考えるうえで、また、当時の高度な石工技術を知るうえで、学術的に価値が高いものである。



稚児窟石棺蓋

2 市内遺跡事業(国庫補助事業)

国の文化財補助金事業として、市内遺跡などについて埋蔵文化財の記録の作成、保存に必要な資料を得るための発掘調査及び出土品の資料整理などを行った。内容は、開発に伴う本発掘調査、確認調査、試掘調査、分布調査である。また、市内遺跡出土金属製品の保存処理を行った。事業費4,464千円(国費2,232千円、県費1,116千円)。

3 重要文化財鶴林寺鐘樓及び護摩堂保存修理事業(国庫補助事業)

国の文化財補助金事業として、重要文化財である鶴林寺の鐘樓及び護摩堂の修理工事を、鶴林寺が事業主体となって令和4(2022)・5年度に行った。令和4年度は、鐘樓の瓦葺替えを中心とした工事を実施した。事業費18,952千円(国費14,214千円、県費1,579千円)。



修繕中の鶴林寺護摩堂

4 指定文化財保存管理補助事業

指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」（鶴林寺）、「宮山遺跡」（上西条町内会）、「北大塚古墳」（西之山町内会）、「築山の榎」（国包伊勢講）の指定文化財保存管理事業に対して補助を行った。事業費 718 千円（補助額 320 千円）。

5 鶴林寺防災設備保守点検等事業（県費補助事業）

県費補助事業として、指定文化財保守管理のための自動火災報知機・消火栓設備の保守点検等事業を鶴林寺が事業主体となって行った。事業費 414 千円（県費 140 千円）。

6 文化財説明板及び標柱の設置

市内所在の文化財についての情報発信及び周知のため、文化財の説明板や標柱の設置を促進している。

令和 4 年度は、以下のとおり説明板の立替え（3 件）、標柱の新設（1 件）及び立替え（5 件）を実施した。令和 5 年 3 月末時点での設置数は、説明板 177 件、標柱 166 件である。



立替え後の「二塚 1 号墳、2 号墳」説明版

説明板の立替え 「二塚 1 号墳、2 号墳」、「称徳寺の石棺」、「成福寺墓地の石棺仏」

標柱の新設 「升田山 12 号墳」

標柱の立替え 「升田山 8 号墳」、「升田山 9 号墳」、「升田山 11 号墳」、「宮山大塚古墳」、「石棺仏（寺本の地藏）」

※「石棺仏（寺本の地藏）」は、説明板から標柱への立替えである。

7 県指定文化財本岡家住宅の管理、公開・活用

(1) 施設管理について

江戸時代前期の民家建築である本岡家住宅は、平成 10（1998）年に所在地であった八幡町下村から加古川市立少年自然の家（東神吉町天下原）敷地内に移築保存され、現在は加古川市教育委員会が管理を行っている。毎年、清掃及び見学案内などの施設管理を加古川市シルバー人材センターに委託して実施しているほか、消防設備保守点検を専門業者に委託して実施している。

(2) 公開及び活用について

本岡家住宅の見学については、事前に申込みを受けたうえで、水曜日の午前 10 時及び午後 2 時、日曜日の午後 2 時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家の無料散策日にも併せて公開している。

定期的な公開としては、毎年 5 月 5 日に「こどもの日特別公開」を行っている。また、10 月から 11 月にかけて設定されている「ひょうご Heritage マンス」に合わせて「秋の特別公開」を行っている。令和 4 年度は、「こどもの日特別公開」を 5 月 5 日、「秋の特別公開」を 11 月 24 日から 30 日まで（28 日を除く）実施した。年間の本岡家住宅利用者数は、表 3 のとおりである。前年度比は 969 人の増であった。

表3 本岡家住宅月別利用者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数(人)	125	674	125	89	12	0	54	265	133	0	196	164	1777



本岡家住宅「こどもの日特別公開」開催状況

8 加古川市文化財講座の開催

市民に加古川地域の歴史や文化財について理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。令和4年度の開催状況は、以下のとおりである。

第1回

日時：10月29日(土) 午後2時～午後4時
 場所：加古川市民会館 大会議室
 講師：金子 哲氏(兵庫大学教授)
 演題：「鎌倉時代の加古川」
 参加者：71名



第2回

日時：11月5日(土) 午後2時～午後4時
 場所：加古川市民会館 大会議室
 講師：上月昭信氏・友久伸子氏
 (東播磨地域史懇話会)
 演題：「西桑古墳群～1963・64年の調査成果～」
 参加者：57名



第3回

日時：11月26日(土) 午後2時～午後4時
 場所：加古川市民会館 大会議室
 講師：岡田章一氏
 (兵庫県立考古博物館名誉芸員)
 演題：「陶磁器からみた中世の播磨」
 参加者：43名



各回開催状況

9 『文化財ニュース』の発行

市内文化財の状況を伝えるとともに市民の文化財保護意識の高揚を図るため、年に1度『文化財ニュース』を発行している。令和4年度は『文化財ニュース』66号を発行し、市内小中学校をはじめとした各関係機関に配布を行った。なお、バックナンバーを含めてこれまで発行してきた『文化財ニュース』は、加古川市のホームページから閲覧可能である。



文化財ニュース No. 66

10 『文化財解説シート』の発行

平成21(2009)年度から平成23(2011)年度にかけての緊急雇用対策文化財資料整理事業の一環で作成していた市内文化財の個別の解説シートである『文化財解説シート』については、平成29(2017)年度から作成を再開した。加古川市立中央図書館2階で配布しているほか、加古川市のホームページから閲覧可能である。令和4年度は以下の『文化財解説シート』を発行した。



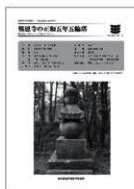
通番 33号(工芸品2)
鶴林寺の銅鐘



通番 34号(工芸品3)
尾上神社の銅鐘



通番 35号(石造美術23)
報恩寺の石造五輪塔



通番 36号(石造美術24)
報恩寺の正和五年五輪塔

11 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護又は活用を行っている諸団体の活動に対し、必要に応じて協力している。令和4年度は、地域文化財総合活用推進事業として、表4のとおり各関係団体に対して協力を行った。内容は、市内文化財の保存関係団体への補助である。

表4 文化財関係団体との連携先一覧（加古川文化遺産活性化実行委員会）

伝統文化親子教室

事業主体	事業名称
加古川西部茶道会	茶道と作法こども教室
上ノ庄神社崇敬会	伝統文化伝承親子教室
下西条八幡神社神事獅子舞保存会	獅子舞親子教室
下村祭保存会	下村笛獅子舞親子教室
楳保会	陸南おやこいげばな教室
宗佐秋祭り保存会	宗佐屋台・笛・獅子舞親子教室
日本の伝統いげばな加古川会	伝統文化いげばな親子教室
野村祭り保存会	野村伝統文化親子教室
俳句西加古川会	楽しい俳句こども教室
平岡五色百人一首会	平岡五色百人一首教室
福谷神社神事保存会	東神野獅子舞子供教室
福留日開神社神事保存会	福留獅子舞親子教室
船町屋台保存会	船町祭りこども親子教室
萬代能楽塾	加古川こども能楽教室
宮前獅子舞保存会	宮前獅子舞親子教室

加古川文化遺産活性化実行委員会関連事業

事業主体	実施団体
加古川文化遺産 活性化実行委員会	福原町地区町内会連合会
	下村祭保存会
	宗佐秋祭り保存会
	西河原町内会
	西山町内会獅子舞保存会
	日開神社秋祭保存会
	福谷神社神事保存会
	船町屋台保存会
山奥屋台保存会	

※50音順

12 寄贈資料等の受入れ

令和4年度は、表5のとおり資料の寄贈を受けた。

表5 寄贈資料等の受入れ一覧

番号	区分	受入日	依頼者	資料の名称	数量	文書番号
1	資料寄贈	12月13日	個人	中之池上樋伏特請用控	1点	加教文第2044号
				坂方辰伝書	1点	

13 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾

令和4年度は、表6のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表6 資料貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	貸出し・掲載先及び目的
1	貸出し	4月1日～ 令和5年3月31日	溝之口遺跡出土 弥生土器	6点	明石市立文化博物館	常設展（継続貸出し）
2	掲載承諾	5月12日	行者塚古墳 関連写真	12点	大府府立箕山池博物館	令和4年度特別展「古墳時代の水施設の義礼」展示及び図録
	貸出し	9月1日～ 11月12日	行者塚古墳出土 木桶形土製品	一式		
			行者塚古墳出土 土製品	12点		
			行者塚古墳出土 土師器	2点		
			行者塚古墳出土 金銅製帯金具	2点		
行者塚古墳出土 鉄鏝	3点					
3	掲載承諾	6月7日	行者塚古墳出土 冢形土器・高杯と土製品 写真	1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和4年度国際交流展「古墳時代の台所革命と東アジア」展示及び図録
4	貸出し	8月26日～ 令和5年3月31日	行者塚古墳出土 蓋形埴輪片	一式	大手前大学史学研究所	資料整理のため
			行者塚古墳出土 盾形埴輪片	一式		
5	掲載承諾	9月8日	行者塚古墳出土 長方形鏡板付帯写真	1点	株式会社朝日新聞出版	東瀬著『倭と加耶一朝鮮海峡の考古学』（朝日新聞出版）

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	貸出し・掲載先及び目的
6	掲載承諾	11月4日	行者塚古墳出土 甲冑形埴輪 写真	1点	たつの市立埋蔵文化財センター	令和4年度特別展「播磨のものふたちーもう一つの武人の時代ー」展示及び図録
7	掲載承諾	11月30日	行者塚古墳出土 冴形土器・高杯と土製品 写真 西造り出し復元画（小東憲朗氏作）	1点 1点	株式会社吉川弘文館	致生衛著『まつりと神々の古代』（吉川弘文館）
8	掲載承諾	令和5年2月17日	行者塚古墳出土 盾形埴輪 写真	1点	株式会社雄山閣	廣瀬登彌『季刊考古学 163号』特集「埴輪からみた王権と社会」（雄山閣）
9	掲載承諾	令和5年3月14日 ～7月2日	行者塚古墳 整備後写真	1点	兵庫県立考古博物館	令和5年度春季特別展「古墳時代の技術革新」展示及び図録等
10	貸出し	令和5年4月1日 ～7月23日	行者塚古墳出土 金銅製帯金具	4点		
			行者塚古墳出土 鉄鏝	3点		
			カンス塚古墳出土 金製垂飾付耳飾	1対		
			カンス塚古墳出土 鉄鏝	1点		
			カンス塚古墳出土 砥石	1点		
		砂部遺跡出土 須恵器瓶	1点			

14 資料調査などの受入れ

令和4年度は、表7のとおり資料調査などを受入れた。

表7 資料調査などの受入れ一覧

番号	期間	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	4月26日	個人	大阪府立狭山池博物館	行者塚古墳	冴形埴輪 冴形埴輪 木槌形土製品 土師器及び土製品 金銅製帯金具 鉄鏝	特別展準備
2	8月9～26日	個人	大手前大学史学研究所	行者塚古墳	出土資料一括	学術研究
3	10月28日	個人	たつの市立埋蔵文化財センター	池尻2号墳	冴 短甲片 頸甲片	特別展準備
4	11月24・25日	個人	京都大学大学院	長慶寺山1号墳 天坊山古墳	鉄製品 鉄製品	博士論文執筆
5	令和5年2月6日	個人	北九州市立自然史・歴史博物館	行者塚古墳	土製品及び冴形土器	学術研究
6	令和5年3月6日	個人	兵庫県まちづくり技術センター	美乃利遺跡	石製品 棒状鉄片 微小鉄片 弥生土器	論文執筆
7	令和5年3月7日	個人	兵庫県立考古博物館	行者塚古墳 カンス塚古墳	金銅製帯金具 鉄鏝 金製垂飾付耳飾 鉄製品（鍛冶具） 砥石	特別展準備
8	令和5年 3月20～31日	個人	大手前大学史学研究所	行者塚古墳	砂部遺跡 須恵器瓶	学術研究

15 講師の派遣など

市民に地域の歴史や文化財についての理解を深めてもらい、また、文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会などの事業に対して講師の派遣などを行っている。令和4年度は、表8のとおり講師の派遣などを行った。

表8 講師派遣など一覧

番号	年月日	派遣職員	派遣先	内容
1	6月3日	宮本佳典	東神吉小学校	校外学習での平任岡古墳群等現地解説
2	6月4日	山中リュウ	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館主催シンポジウム「大中道跡とその時代—東播磨沿岸部の弥生集落—」での発表「加古川流域の弥生集落—下流域左岸を中心として—」
3	6月7日	山中リュウ	神野小学校	行者塚古墳の現地解説（古墳探検歴史学習）
4	6月16日	宮本佳典	加古川総合文化センター	兵庫大学共通教育機構「地域と文化財」に係る施設見学会内
5	8月5日	平尾英希	加古川総合文化センター	加古川総合文化センター主催「さわる世界旅行」（事業協力）
6	9月13日	山中リュウ	野口公民館	野口ふれあい大学歴史講座「発掘された野口町の歴史」
7	9月24日	宮本佳典	姫路市市民会館	播磨学研究所特別講座「鶴林寺と聖徳太子信仰」
8	10月19日	吉林舞香	両荘公民館	ゆるーい歴史講座「発掘調査からみた加古川の歴史」
9	11月3日	宮本佳典	西牧公民館	西牧地区まちづくり協議会「西中の歴史と文化財」及びまち歩き講師
10	11月16日	平尾英希	両荘公民館	ゆるーい歴史講座「日岡山古墳群をめぐる（現地解説）」
11	12月17日	平尾英希	東播磨生活創造センター かこむ	播磨歴史研究会講演会「加古川の古墳の特徴」



神野小学校歴史学習の様子

16 「トライやる・ウィーク」の受入れ

兵庫県では、平成10（1998）年度から公立中学校2年生を対象に、生徒たちが地域での様々な体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感するとともに、生徒の自主性や自立性等を育むことを目的とした「トライやる・ウィーク」を実施している。

文化財調査研究センターでは実施当初から生徒の受入れを行っており、令和4年度は6月6日から10日までの5日間、加古川市立平岡中学校の生徒3名を受け入れた。体験内容は、博物館施設等の見学、古墳や寺社仏閣等における文化財巡視、本岡家住宅の清掃、土器の洗浄や接合、拓本といった埋蔵文化財の資料整理などである。

（古林）

第3章 文化財審議委員会

1 委員

「加古川市文化財の保護に関する条例」に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を設置している。令和4（2022）年度は、令和4年10月19日をもって文化財審議委員の任期満了となったため、改めて8名（再任8名）の学識経験者及び有識者の諸先生方に委員を委嘱した。任期は、令和4年10月20日から令和6（2024）年10月19日までの2年間である。各委員の氏名、主な専門分野、所属は以下のとおりである。

令和2年10月20日から令和4年10月19日まで

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	荘所直哉	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学協会会員
委員	中久保辰夫	考古学、記念物	京都橋大学文学部准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

令和4年10月20日から令和6年10月19日まで

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	荘所直哉	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学協会会員
委員	中久保辰夫	考古学、記念物	京都橋大学文学部准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

2 会議

第1回	日時	令和4年6月29日（水）午後1時50分から午後3時40分まで
	場所	加古川市役所新館8階 教育委員室
	出席者	茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、岡田委員、荘所委員、藤原委員
	内容	○令和3年度文化財関係事業及び決算について ○令和4年度文化財関係事業及び予算について ○加古川市の文化財保護制度の整備に向けての意見交換 ○文化財事務及び調査に係る報告 ・指定文化財事務に係る報告 ・埋蔵文化財発掘調査（本発掘調査）に係る報告

- ・その他の報告
- 指定文化財候補等に係る意見交換
 - ・指定文化財候補について
 - ・その他の文化財について
- その他

- 第2回**
- 日時 令和4年12月20日(火) 午後2時から午後3時40分まで
- 場所 加古川市役所南館 302会議室
- 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、岡田委員、荘所委員、上月委員
- 内容 ○市指定有形文化財指定申請に係る審議について
 - ・稚児窟石棺蓋 1基(平荘町池尻、池尻町内会管理)
 ○文化財関係事業について
 - ・令和4年度11月までを中心とした事業等の進捗状況について
 ○加古川市の文化財保護制度の充実に向けての進捗状況について
- 指定文化財及び埋蔵文化財調査等について
 - ・市指定文化財に関すること
 - ・国指定・登録文化財及び県指定文化財に関すること
- 重要文化財鐘楼及び護摩堂保存修理事業(国庫補助事業、鶴林寺)
 - ・埋蔵文化財調査について
 - 令和4年度日岡山公園再整備事業に伴う東車塚古墳等確認・試掘調査
 - 令和4年度雁戸井地区ほ場整備事業に伴う上村池遺跡等本発掘調査
- その他
 - ・その他歴史文化及び文化財に関する情報交換
- 第3回**
- 日時 令和5年1月31日(火) 午後2時から午後4時40分まで
- 場所 市杵島神社境内(現地調査)、投松公会堂・鶴林寺(視察)、加古川市役所南館特別会議室(会議)
- 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、岡田委員、上月委員、友久委員、中久保委員、藤原委員、荘所委員
- 内容 ○市指定有形文化財指定申請に係る審議について
 - ・稚児窟石棺蓋 1基(池尻町内会管理、新規指定)
 ○市指定有形文化財候補現地調査
 - ・稚児窟石棺蓋 1基(池尻町内会管理)
 ○重要文化財鶴林寺鐘楼修理状況視察
- その他
 - ・文化財及び文化財行政に係る意見交換

(古林)

第4章 文化財関係の事務処理

1 指定・登録文化財事務

(1) 国指定文化財現状変更申請

令和4(2022)年度は、表9のとおり国指定文化財の現状変更申請の処理を行った。

表9 国指定文化財現状変更申請一覧

番号	名称	員数	区分	現状変更内容	目的	文書番号
1	西条古墳群	3基	国指定	行者塚古墳及び足塚古墳範囲における樹木伐採(各1本)	近隣住宅街への折れ枝や倒木被害の予防措置	加教文第2838号

(2) 市指定文化財所在場所変更届出

令和4年度は、表10のとおり市指定文化財の所在場所変更届出の処理を行った。

表10 市指定文化財所在場所変更届出一覧

番号	名称	員数	区分	変更の目的	変更前所在場所	変更後所在場所	期間	文書番号
1	隠糸胸取金茶碗二枚制置具足	1個	市指定	特別展「船坂家龍野入村350年事業」での展示	早開町西谷18	兵庫県たつの市龍野町上霞城128-3。(たつの市立龍野歴史文化資料館)	10月11日～12月5日	加教文第1094号

2 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

令和4年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は2,881件(昨年度比-11件)であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が2,449件、農地転用等に関する事前の照会が281件、建設予定地に関する事前協議等が80件、開発事業に関する事前協議等が71件である。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知

令和4年度における文化財保護法第93・94条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は、131件(昨年度比+1件)であった(表11)。このうち、第93条に基づく発掘届出は122件、第94条に基づく発掘通知は9件である。工事的の内訳は、道路1件、住宅13件、学校1件、個人住宅42件、工場2件、店舗1件、住宅兼店舗2件、その他建物11件、宅地造成8件、観光開発1件、水道・ガス・電気38件、農業基盤整備1件、その他開発10件である。

表11 埋蔵文化財発掘届出・通知一覧

番号	道筋	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
1	粟津道筋 集落跡 弥生・古墳	その他建物	加古川町粟津26-6の一部外	事業者	慎重工事	5月16・17日	加教文第28号
2	下村道筋 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町下村843	個人	慎重工事	5月30日	加教文第29号
3	東神吉道筋 集落跡 弥生・古墳	宅地造成	東神吉町砂部327-2の一部	個人	慎重工事	4月20・21日	加教文第30号

番号	道跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
4	中瀬子山城跡 城館跡 中世	その他開発 (設備撤去)	志方町広尾 1939-62	事業者	工事立会		加教文第 105 号
5	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町二俣 756-4	個人	慎重工事		加教文第 128 号
6	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	野口町二屋 328-2 地先	事業者	工事立会		加教文第 129 号
7	中西古地遺跡 集落跡・城館跡 弥生～中世	その他開発 (太陽光発電)	東神吉町神吉 1939	事業者	慎重工事		加教文第 159 号
8	北在家遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他建物	野口町良野 402-3	加古川市上下 水道局	慎重工事	6月1・2日	加教文第 161 号
9	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 719-1	個人	慎重工事		加教文第 169 号
10	山之上遺跡 散布地 旧石器	電気・ガス・水道	平岡町山之上 67-1 地先	加古川市上下 水道局	工事立会		加教文第 180 号
11	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 496-1	個人	慎重工事		加教文第 181 号
12	岸城跡 城館跡 中世	電気・ガス・水道	西神吉町岸 695-12 地先外	事業者	慎重工事		加教文第 207 号
13	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	工場	尾上町口里 475-2 外	事業者	慎重工事		加教文第 219 号
14	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	平岡町土山 1183-7 地先	事業者	工事立会		加教文第 244 号
15	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	野口町二屋 303-1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 259 号
16	稲屋横田跡 城館跡 中世	その他建物	加古川町稲屋 139-1 の一 部	個人	慎重工事		加教文第 359 号
17	山之上遺跡 散布地 旧石器	電気・ガス・水道	平岡町山之上 684-78 地先	事業者	慎重工事		加教文第 381 号
18	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町溝之口 373-1 地 先	事業者	慎重工事		加教文第 436 号
19	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 252-34	事業者	慎重工事	6月21日	加教文第 453 号
20	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町神吉 608-157・ 158	個人	慎重工事		加教文第 457 号
21	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	その他開発 (アスファルト舗 装)	野口町古大内 453	事業者	慎重工事		加教文第 460 号
22	成井山遺跡 集落跡 縄文～平安	観光開発	志方町成井 429-3 外	加古川市長	慎重工事	8月5・10日	加教文第 502 号
23	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町美乃利 465-1	事業者	慎重工事		加教文第 568 号
24	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 172-8・1 の一部	個人	慎重工事		加教文第 569 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
25	山角原寺 社寺跡 奈良	その他建物	平荘町山角 468-2 外	個人	慎重工事	6月16日	加教文第 594 号
26	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町溝之口 85-4 地先	事業者	慎重工事		加教文第 603 号
27	大塚遺跡 集落跡 中世	その他開発 (屋外広告物)	野口町長砂 667-1	事業者	工事立会		加教文第 639 号
28	中西台地遺跡 集落跡・城館跡 弥生～中世	電気・ガス・水道	東神吉町神吉 1986 外	事業者	工事立会		加教文第 652 号
29	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 奈良・平安	農業基盤整備	八幡町中西美地内	北播磨県民局 長	発掘調査		加教文第 695 号
30	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 50-7	個人	慎重工事		加教文第 696 号
31	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元 1004-1	個人	慎重工事		加教文第 706 号
32	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅兼店舗	野口町坂元北一丁目 24	個人	慎重工事		加教文第 719 号
33	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	電気・ガス・水道	加古川町大野 607-5 地先 外	事業者	工事立会		加教文第 758 号
34	尾上横原跡 城館跡 中世	その他開発 (解体)	尾上町長田 507	兵庫県警本 部長	工事立会		加教文第 762 号
35	野口城跡 城館跡 中世	宅地造成	野口町野口 227-1	事業者	慎重工事	9月7・8日	加教文第 773 号
36	中西台地遺跡 集落跡・城館跡 弥生～中世	個人住宅	東神吉町神吉 1896 の一部	個人	慎重工事		加教文第 845 号
37	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町二俣 905-123	個人	慎重工事		加教文第 863 号
38	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 719-1 外	個人	慎重工事		加教文第 869 号
39	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町溝之口 351-6 地 先	事業者	慎重工事		加教文第 904 号
40	一色横原跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色 514-2 外	事業者	慎重工事		加教文第 929 号
41	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	野口町二屋 328-2 外	事業者	慎重工事		加教文第 930 号
42	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町 1549-1・2	個人	慎重工事		加教文第 938 号
43	観音寺城跡 城館跡 中世	その他建物	志方町志方町 1536-4 外	個人	慎重工事		加教文第 969 号
44	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町大野 642-5 の一 部外	個人	慎重工事		加教文第 1040 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
45	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北一丁目21-3	事業者	慎重工事		加教文第1043号
46	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里736-20・23	個人	慎重工事		加教文第1064号
47	加古川城跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町本町130-6の一部外	個人	慎重工事		加教文第1070号
48	升田遺跡 集落跡 奈良	その他開発 (太陽光発電)	東神吉町升田998-1	事業者	慎重工事		加教文第1107号
49	樋之口遺跡 集落跡 弥生	店舗	尾上町美田350-21外	事業者	慎重工事		加教文第1110号
50	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口76-1	個人	慎重工事		加教文第1127号
51	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町砂部354-33	個人	慎重工事		加教文第1140号
52	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	住宅	野口町古大内491-3の一部	事業者	慎重工事	9月9日	加教文第1181号
53	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元1004-2	個人	慎重工事		加教文第1194号
54	神古南遺跡 集落跡 弥生～奈良	住宅	東神吉町神古169-7	個人	慎重工事		加教文第1196号
55	西条21号墳 古墳 古墳	個人住宅	西条山平二丁目16-3	個人	慎重工事	9月21日	加教文第1199号
56	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利374-3	事業者	慎重工事		加教文第1231号
57	栗津遺跡 集落跡 弥生・古墳	道路	加古川町栗津地内	加古川市長	慎重工事		加教文第1244号
58	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口140-18	事業者	慎重工事	9月29日	加教文第1271号
59	良野遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町良野542-45外	個人	慎重工事		加教文第1276号
60	長砂横居跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町長砂592-15外	個人	慎重工事		加教文第1340号
61	西条21号墳 古墳 古墳	電気・ガス・水道	西条山平二丁目43	事業者	慎重工事		加教文第1360号
62	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	学校建設	加古川町大野845	加古川市長	慎重工事		加教文第1399号
63	升田遺跡 集落跡 奈良	その他開発 (安材置場)	東神吉町升田1004	個人	慎重工事		加教文第1433号
64	加古川城跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町本町130-6	個人	慎重工事		加教文第1482号

番号	道路	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
65	加古川城跡 城館跡 中世	住宅	加古川町本町319-20の一部	個人	慎重工事		加教文第1489号
66	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口172-9外	個人	慎重工事		加教文第1519号
67	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町溝之口229-7地先	事業者	慎重工事		加教文第1521号
68	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口223-24	事業者	慎重工事		加教文第1534号
69	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	電気・ガス・水道	野口町坂元北一丁目24地先	事業者	慎重工事		加教文第1542号
70	平野遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	加古川町平野515	個人	慎重工事		加教文第1595号
71	岸南遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	西神吉町岸103-13	個人	工事立会		加教文第1634号
72	観音寺城跡 城館跡 中世	電気・ガス・水道	志方町志方町1017-2地先	加古川市長	慎重工事		加教文第1642号
73	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	電気・ガス・水道	野口町古大内445-1外	事業者	工事立会		加教文第1648号
74	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	尾上町口里516-1	個人	慎重工事		加教文第1649号
75	長砂横居跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町長砂592-16外	個人	慎重工事		加教文第1656号
76	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町1017-3	個人	慎重工事	11月7日	加教文第1671号
77	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	電気・ガス・水道	尾上町口里719-1地先	事業者	慎重工事		加教文第1672号
78	加古川城跡 城館跡 中世	電気・ガス・水道	加古川町本町319-20地先	事業者	慎重工事		加教文第1679号
79	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	平岡町二俣905-123地先	事業者	慎重工事		加教文第1695号
80	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	電気・ガス・水道	東神吉町神吉30-3外	事業者	工事立会		加教文第1728号
81	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	電気・ガス・水道	野口町古大内426-7外	事業者	慎重工事		加教文第1799号
82	山之上遺跡 敷布地 旧石器	その他開発 (屋外広告物)	平岡町山之上684-1、備目池	山之上水利組合	工事立会		加教文第1807号
83	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町上西条3-5	個人	慎重工事	12月6日	加教文第1813号
84	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	工場	野口町古大内394-1外	事業者	工事立会		加教文第1836号

番号	道路	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
85	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅兼店舗	志方町志方町 1019-12	個人	慎重工事		加教文第 1849 号
86	細田横原跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野 1001-1 外	個人	慎重工事		加教文第 1887 号
87	井ノ口城跡 城館跡 中世	その他建物	上庄町井ノ口 513-1	個人	慎重工事		加教文第 1888 号
88	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町 703-1・2	個人	慎重工事	12月13～15日	加教文第 1889 号
89	細田横原跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野 1002	個人	慎重工事		加教文第 1894 号
90	良野遺跡 敷布地 弥生	住宅	野口町良野 562-1・2	事業者	慎重工事		加教文第 1906 号
91	平津遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	米田町平津 514 外	事業者	工事立会	令和5年 1月12・13日	加教文第 2015 号
92	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町溝之口 107-1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2033 号
93	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町上西条 3-1	個人	慎重工事		加教文第 2041 号
94	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北四丁目 31	事業者	工事立会		加教文第 2071 号
95	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北二丁目 62	事業者	工事立会		加教文第 2075 号
96	岸城跡 城館跡 中世	電気・ガス・水道	西神吉町岸 709-1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2094 号
97	平津遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	米田町平津 504-27 外	事業者	工事立会		加教文第 2143 号
98	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町神吉 608-157 外	個人	慎重工事		加教文第 2153 号
99	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 178-13・14	事業者	慎重工事		加教文第 2158 号
100	平野遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	加古川町平野 446	個人	慎重工事		加教文第 2194 号
101	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	個人住宅	東神吉町神吉 545-7	個人	慎重工事		加教文第 2200 号
102	中西台地遺跡 集落跡・城館跡 弥生～中世	電気・ガス・水道	東神吉町神吉 1898 外	事業者	慎重工事		加教文第 2220 号
103	高の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	尾上町口里 568-13	事業者	慎重工事	令和5年 1月18日	加教文第 2222 号
104	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	電気・ガス・水道	野口町坂元北二丁目 62 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2245 号

番号	道跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
105	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	宅地造成	尾上町口里 830-1	事業者	慎重工事		加教文第 2264 号
106	西村遺跡 集落跡 弥生～奈良	電気・ガス・水道	西神吉町中西地内	事業者	工事立会		加教文第 2317 号
107	中西低地遺跡 集落跡 弥生・古墳	電気・ガス・水道	西神吉町中西地内	事業者	工事立会		加教文第 2319 号
108	長俣遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	平岡町山之上 660	事業者	慎重工事		加教文第 2320 号
109	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 172-10 外	個人	慎重工事		加教文第 2342 号
110	観音寺城跡 城館跡 中世	電気・ガス・水道	志方町志方町 1050	加古川市長	慎重工事		加教文第 2361 号
111	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	電気・ガス・水道	野口町坂元北四丁目 31 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2372 号
112	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	個人住宅	野口町古大内 444-1	個人	慎重工事		加教文第 2384 号
113	神古南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 (太陽光発電)	東神吉町神古 30-1	事業者	慎重工事		加教文第 2434 号
114	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	電気・ガス・水道	野口町坂元北四丁目 31 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2436 号
115	細田横畷跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野 77-5 外	個人	慎重工事		加教文第 2520 号
116	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町二俣 905-129	個人	慎重工事		加教文第 2523 号
117	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他建物	加古川町溝之口 385-6 外	個人	慎重工事		加教文第 2538 号
118	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町山之上 661-7	個人	慎重工事		加教文第 2550 号
119	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町砂部 327-2 の一部	個人	慎重工事		加教文第 2572 号
120	岸城跡 城館跡 中世	その他建物	西神吉町岸 709-2・4	事業者	慎重工事		加教文第 2591 号
121	観音寺城跡 城館跡 中世	その他建物	志方町志方町 1076-1 外	事業者	慎重工事		加教文第 2618 号
122	長俣遺跡 集落跡 弥生	電気・ガス・水道	平岡町山之上 660 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2631 号
123	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	電気・ガス・水道	平岡町新在家 193-5 外	事業者	慎重工事		加教文第 2715 号
124	大塚遺跡 集落跡 中世	その他開発 (看板設置工事)	野口町良野 20-1	事業者	慎重工事		加教文第 2745 号

番号	道跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
125	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	住宅	野口町古大内 584-2 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 2769 号
126	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	電気・ガス・水道	尾上町口里 516-1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2783 号
127	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 102-8	個人	慎重工事		加教文第 2794 号
128	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町平溝之口 102-5	個人	慎重工事		加教文第 2796 号
129	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	電気・ガス・水道	加古川町美乃利 133-8 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2806 号
130	平野遺跡 集落跡 弥生	電気・ガス・水道	加古川町平野 446 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2807 号
131	神古南遺跡 集落跡 弥生～奈良	電気・ガス・水道	東神吉町神古 62-5 外	事業者	工事立会		加教文第 2845 号

※1 調査期間は確認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

令和4年度は、表12のとおり文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知を提出した。

表12 埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	道跡名	所在地	調査面積	調査の契機	調査期間	調査担当者	文書番号	備考
1	岸城跡 城館跡 中世	西神吉町岸 691 外	503 m ²	宅地造成	5月13日～ 6月10日	古林舞香	加教文第 371 号	調査終了後「岸東遺跡」「集落跡」に変更
2	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 奈良・平安	八幡町中西条地内	140 m ²	農業基盤整備	9月14日～ 9月29日	山中リョウ	加教文第 695 号	
3	広畑遺跡 集落跡 奈良～中世	八幡町中西条地内	475 m ²	農業基盤整備	11月21日～ 令和5年1月20日	古林舞香	加教文第 1918 号	

(4) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更報告

令和4年度は、表13のとおり周知の埋蔵文化財包蔵地の変更を報告した。

表13 埋蔵文化財包蔵地の変更報告一覧

番号	道跡名	所在地	変更理由	発見年月日	発見の事情	文書番号など	備考
1	岸東遺跡（旧岸城跡） 集落跡 中世	西神吉町岸地内	名称変更	6月10日	本発掘調査	令和4年8月17日付 加教文第 371-3 号	令和5年3月27日付 教文第 2861 号にて通知

(5) 埋蔵物発見届

令和4年度は、表14のとおり埋蔵物発見届を提出した。

表14 埋蔵物発見届一覧

番号	道跡名	所在地	埋蔵物の名称及び数量	発見月日	発見者	土地所有者	文書番号
1	岸城跡(岸東道跡) 城館跡 中世	西神古町岸691外	土師器、須恵器、麻輪 陶器、瓦 遺物収納コンテナ2箱	6月10日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第371号
2	上村池道跡 集落跡・生産道跡 奈良～中世	八幡町中西条地内	土師器・須恵器・瓦な ど 遺物収納コンテナ3箱	9月29日	加古川市教育委員会	個人	加教文第695号
3	美乃利道跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野地内	弥生土器、土師器、須 恵器、土師質土器など 遺物収納コンテナ9箱	8月5日	加古川市教育委員会	加古川市長	加教文第1114号
4	溝之口道跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口 140-18	弥生土器・須恵器・石 器 遺物収納コンテナ1箱	10月21日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第1271号
5	東車塚古墳・西車 塚古墳 古墳 古墳	加古川町大野地内 (日岡山公園)	埴輪など 遺物収納コンテナ2箱	11月11日	加古川市教育委員会	加古川市長	加教文第1587号
6	広畑道跡 集落跡 奈良～中世	八幡町中西条地内	土師器、須恵器、石器 遺物収納コンテナ2箱	令和5年 1月20日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1918号
7	平津道跡 集落跡 弥生～平安	米田町平津514外	弥生土器、土師器、須 恵器、瓦 遺物収納コンテナ1箱	令和5年 1月20日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第2015号

(古林)

第5章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

令和4(2022)年度の加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は以下のとおりである。

加古川市教育委員会事務局	教育指導部	文化財調査研究センター
教育長 小南克己	部長 桐山朋宏	次長 杉本達之

(2) 職員

令和4年度の文化財調査研究センターの職員は以下のとおりである。

所長	河村孝弘
副所長	宮本佳典(学芸員)
庶務担当係長	萩原美和(教育研究所事務担当係長兼務)
事業担当係長	山中リュウ(学芸員)
主査	前田正尚
主査	高下 寛
学芸員	平尾英希
学芸員	古林舞香
会計年度任用職員	岡田美穂(埋蔵文化財専門員)
会計年度任用職員	前田富子

2 予算・決算

(1) 歳入決算額 ()内は当初予算額

(款) 国庫支出金	(項) 国庫補助金	(目) 教育費国庫補助金	2,232千円(2,400千円)
(款) 県支出金	(項) 県補助金	(目) 教育費県補助金	1,116千円(1,200千円)
(款) 諸収入	(項) 受託事業収入	(目) 教育費受託収入	7,706千円(7,732千円)
(款) 諸収入	(項) 雑入	(目) 雑入	7千円(20千円)
計			11,061千円(11,352千円)

(2) 歳出決算額 ()内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

(款) 教育費	(項) 社会教育費	(目) 文化財保護費	以上共通
(事業) 文化財調査事業			24,962千円(26,302千円)
市内遺跡発掘調査(国庫補助事業)、雁戸井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査、 神納塚古墳・広沢山遺跡発掘調査報告書作成、遺跡分布地図作成、公共事業に伴う試掘調査、 市内金属製品保存処理			
(事業) 文化財保護活動事業			8,406千円(11,019千円)
文化財審議委員会等開催、文化財ニュース発行、文化財説明板等設置、史跡及び 建造物等管理、文化財保存管理補助、石造宝篋印塔修理補助、史跡及び建造物等 草刈等管理、その他の文化財関係事務			
計			33,368千円(37,321千円)

3 施設管理等

(1) 市内史跡・文化財の環境整備

加古川市が管理する国指定史跡西条古墳群（行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳）、県指定史跡西条廃寺跡、南大塚古墳、西大塚古墳及び日岡山古墳群周辺の草刈り及び剪定等を加古川市シルバー人材センターに委託して実施した。

加古川市が提供する文化財説明板・標柱の設置及び周辺の清掃等環境整備を加古川市シルバー人材センターに委託して実施した。

(2) 文化財収蔵施設の管理

発掘調査における出土遺物等をはじめとする文化財の収蔵施設として、平荘町山角に所在する旧平荘保育園舎を使用して「平荘文化財収蔵庫」を設置した。令和4年度は、施設の稼働開始に伴って既存収蔵施設からの遺物の移動作業を適宜行ったほか、施設管理のため施設機械整備、消防設備保守点検、草刈り等環境整備を各専門業者に委託して実施した。

4 令和4年度業務日誌抄

- 3月28日～8月5日 中津水足線外1線道路改良事業に伴う美乃利遺跡発掘調査（前年度事業）
- 4月26日 特別展準備に係る資料調査受入れ（行者塚古墳出土資料）
- 5月5日 本岡家住宅こどもの日特別公開
「箏曲郷の会」、「すみれキングガーデン」合同コンサート及び体験教室に係る本岡家住宅の使用受入れ
- 5月13日～6月10日 民間開発に伴う岸東遺跡（岸城跡）本発掘調査
- 5月25日 兵庫県文化財主管課連絡会議のため兵庫県職員会館に出張（山中）
- 6月3日 東神吉小学校6年生校外学習に係る講師派遣（宮本）
- 6月4日 兵庫県立考古博物館主催シンポジウム「大中遺跡とその時代－東播磨沿岸部の弥生集落－」での発表（山中）
- 6月6日～10日 「トライやる・ウィーク」平岡中学校生徒3人受入れ
- 6月7日 神野小学校6年生歴史学習に係る講師派遣（山中）
- 6月16日 兵庫大学共通教育機構「地域と文化財」に係る収蔵庫等団体見学受入れ（宮本）
- 6月29日 第1回文化財審議委員会
- 6月30日 『坂元遺跡発掘調査報告書』刊行
- 7月5日 加古川市文化財保護協合理事会に出席（河村）
- 7月8日 第23回全史協近畿地区協議会総会・研修会及び現地研修会のため木津川市加茂文化センターに出張（古林）
- 7月12日～9月27日 日岡山公園再整備事業に伴う日岡山古墳群及び広沢山遺跡試掘・確認調査
- 8月5日 加古川総合文化センター主催「さわる世界旅行」への事業協力（平尾）
- 8月9日～26日 学術研究に係る資料調査受入れ（行者塚古墳出土資料）
- 8月14日 加古川市立少年自然の家・ウェルネスパーク図書館主催「こわいおはなし会」に係る本岡家住宅使用受入れ
- 9月8日 いなみ野学園大学学生自治会による史跡西条廃寺跡のボランティア清掃作業受入れ
- 9月12～16日 文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」参加のため奈良文化財研究所へ出張（古林）
- 9月13日 野口公民館「野口ふれあい大学歴史講座」に係る講師派遣（山中）
- 9月14～29日 雁戸井ほ場整備事業に伴う上村池遺跡本発掘調査

- 9月24日 はりま学特別講座「鶴林寺と聖徳太子信仰」に係る講師派遣（宮本）
- 10月18日 明石市立沢池小学校「自然学校プログラム」お話しに係る本岡家住宅使用受入れ
- 10月19日 両荘公民館「ゆるーい歴史講座」に係る講師派遣（古林）
- 10月28日 特別展準備に係る資料調査受入れ（池尻2号墳出土甲冑）
- 10月29日 第1回文化財講座
- 11月3日 西牧地区まちづくり協議会に係る講師派遣（宮本）
- 11月5日 第2回文化財講座
- 11月16日 両荘公民館「ゆるーい歴史講座」に係る講師派遣（平尾）
- 11月17日 コウノトリの情報提供に係る現地確認
- 11月21～1月20日 雁戸井ほ場整備事業に伴う広畑遺跡本発掘調査
- 11月24・25日 論文執筆に係る資料調査受入れ（長慶寺山1号墳出土鉄製品等）
- 11月24～27、29・30日 本岡家住宅「秋の特別公開」開催
- 11月25日 兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会のため兵庫県立考古博物館に出張（平尾）
- 11月26日 第3回文化財講座
- 12月17日 播磨歴史研究会主催「歴史講演会」に係る講師派遣（平尾）
- 12月20日 第2回文化財審議委員会
- 1月22日 「文化財防火デー」に係る鶴林寺消防訓練視察
- 1月31日 第3回文化財審議委員会
- 2月6日 学術研究に係る資料調査受入れ（行者塚古墳出土土製品等）
- 2月27日 兵庫県史跡整備市町村協議会総会及び研修会を加古川市役所南館にて開催
- 3月6日 論文執筆に係る資料調査受入れ（美乃利遺跡出土遺物等）
- 3月7日 特別展準備に係る資料調査受入れ（行者塚古墳出土帯金具等）
- 3月9日 定例教育委員会議にて「稚児窟石棺蓋」を市指定文化財に指定
- 3月9日 東播磨・北播磨地区文化財担当者会のため明石市魚住文化財収蔵庫に出張（山中）
- 3月9日 博物館資料取扱研修会（オンライン開催）に参加（古林）
- 3月20～31日 学術研究に係る資料調査受入れ（行者塚古墳出土資料）
- 3月22・24日 文化財説明板及び標柱の立替え実施
- 3月31日 『文化財ニュース』66号、『文化財解説シート』第33-36号発行
『加古川市文化財年報 第6号 令和2（2020）年度』刊行

報告書抄録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぼう だいはちごう
書名	加古川市文化財年報 第8号
副書名	令和4(2022)年度
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	山中リュウ、平尾英希、古林舞香(編)
編集機関	加古川市教育委員会
所在地	〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224番地の7
発行年月日	令和7(2025)年3月21日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みぞぐちいせき 溝之口遺跡	かこがわし 加古川市 かこがわしよこぞのぐち 加古川町溝之口 140番18	28210	110010	34° 45′ 56″	134° 50′ 52″	2022年9月29日	4.0㎡	個人住宅
ひらつゆいせき 平津遺跡	かこがわし 加古川市 よしたけちよこひらつゆ 米田町平津 514番外3筆	28210	110657	34° 46′ 53″	134° 48′ 46″	2023年1月12日 ・13日	13.5㎡	宅地造成
しほがたけいせき 志方大塚古墳	かこがわし 加古川市 しほがたけやうしほがたけ 志方町志方町 地内	28210	110328	34° 49′ 19″	134° 49′ 21″	2022年10月27日、 11月18日	9.6㎡	水道

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
溝之口遺跡	集落	弥生～平安	性格不明遺構	弥生土器・土師器・石器	
平津遺跡	集落	弥生～平安	なし	土師器・須恵器	
志方大塚古墳	古墳	古墳	羨道部側壁	土師器・須恵器	
資料の保管機関	加古川市教育委員会教育指導部 文化財調査研究センター 〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224番地の7				

加古川市文化財年報 第8号

令和4(2022)年度

令和7(2025)年3月21日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224番地の7
In 079-423-4088

印刷 小野高速印刷株式会社
〒670-0933 兵庫県姫路市平野町62
In 079-281-0008